＜その他、取組に特徴のある事例＞

○特産品「しおやもも」の生産拡大と獣害対策

１．集落協定の概要

市町村･協定名	岐阜県高山市（たかやまし）　塩屋（しおや）			
協定面積	田（96%）	畑	草地	採草放牧地
23.3ha	水稲	果樹、野菜		
交付金額	個人配分			50.0%
415万円	共同取組活動（50.0%）	役員報酬		2.0%
		会議費・事務費		6.0%
		地域活動助成金		16.1%
		水路道路維持管理費		25.4%
		獣害防止対策費		0.5%
協定参加者	農業者 33人、非農業者 41人、町内会、改良組合（構成員46人）、しおやもも同好会、担い手グループ、加工グループ			

２．集落マスタープランの概要

（１）集落の将来像

・集落内の農家と非農家が連携し、水路や農道の草刈り等など共同作業を行い、一体となって農村集落の機能を守る。また、農作業の担い手を明確化し農作業受委託を推進するととも耕作放棄地となりそうな農地については利用権設定を推進する。

・獣害防止対策を図り生産意欲の向上と耕作放棄地の抑制に努める。

・元気な地域づくりを目指し、有機農業への取り組みや、特産品である「しおやもも」の栽培面積を拡大し加工品の開発と販売推進を図る。

［活　動　内　容］

農業生産活動等

- 農地の耕作・管理（田22.4ha）／個別対応
- 水路の管理（清掃、草刈り）・約5.0km、年2回
農道の管理（清掃、草刈り）・約7.0km、年2回／共同取組活動
- 農地法面の定期的な点検（年２回及び随時）／共同取組活動

多面的機能増進活動

- 周辺林地の下草刈り（約0.5ha、年1回）／個別対応
- 特産品しおやもものの栽培（栽培実証圃での試験栽培10本、苗木育成30本、耕作放棄地復旧と苗木の植樹20アール）／共同取組活動

↕

- しおやもも同好会を設立（地域の農家と非農家が一緒になり栽培、加工品開発等に取り組む）

農業生産活動の体制整備

- イノシシの被害防止
・電気牧柵設置（5機、約4.5km）
・はこワナ設置（8機）
・狩猟免許の取得（2名）／共同取組活動
- 水路の改修
・補修工事の実施（約20m）／共同取組活動
- 担い手への利用権設定（集落の担い手農家への利用権設定3.8ha、目標5.0ha）／共同取組活動

３．取組の経緯及び内容

・集落内に兼業農家が多く、イノシシ被害の発生と高齢化による営農意欲の低下により耕作放棄地の増加が懸念されていた。また、農業に対する地域のまとまりが薄く、特色がない農業であったことから、面白味のある農業にしようと数件の農家が「水稲あいがも栽培」などを試みたが継続しなかった。

・こうした中、平成１２年度から中山間地域等直接支払交付金の対象農家のみで協定を締結し、連携して共同作業に取り組むことで農業に対する地域内の連帯感が高まってきた。そして、平成１７年度からは非農家も含む集落全体での協定を締結し、共同活動分の交付金については、集落全体の活動を対象として使用することとした。

・当該制度の取組で農村環境の保全と集落機能の活性化の大切さが住民全体に浸透し、共同活動や集落行事への積極的な参加と交流が図られた。

○農用地等保全マップ

５年間の共同取組活動として実施する事業の目標を図示している。

・水路の改修工事の範囲
・利用権設定の範囲
・耕作放棄地の復旧場所
・獣害防止の実施場所
・しおやももの植栽場所

耕作放棄地の復旧作業 ・しおやももの栽培面積拡大を図る	「しおやもも」の苗木育成 ・台木に接ぎ木して苗を育成する	熟した「しおやもも」 ・甘酸っぱくみずみずしい味

［平成21年度までの取組目標］

○ 水路の改修工事の実施（当初0.0m、目標100.0m）
○ 集落での大型機械の共同利用による営農の効率化・低コスト化（当初0.0ha、目標10.0ha）
○ 担い手への利用集積（当初3.8ha、目標5.0ha）
○ 農作業の受委託契約面積の拡大（当初0.0ha、目標2.5ha）
○ しおやももの栽培面積拡大（当初0.3ha、目標1.2ha）